

温泉病院だより⑦

発行：医療法人協和会 協立温泉病院
 編集：協立温泉病院 広報委員会
 医療法人協和会
協立温泉病院
 Kyoritu Onsen Hospital
 川西市平野1丁目39番1号
 ホームページアドレス
 WWW.kyowakai.com

平成十六年度
 新入職員二十七名を
 迎えて

平成十六年四月一日桜花咲き誇る中、温泉病院に二十七名の新しい仲間が生まれました。

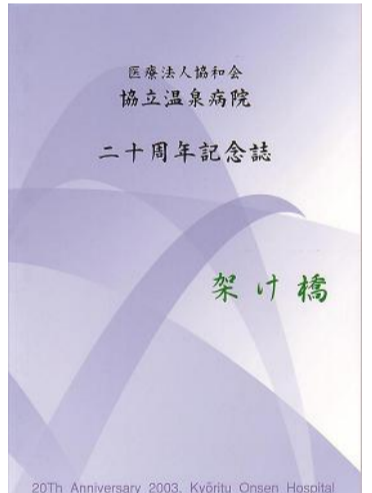
新入職員の皆様は、大きな希望とちょっぴり不安を持って入職されたことと思います。先輩の職員は、新入職員の期待にこたえるためにも、仕事上では厳しい指導を、また仕事以外ではやさしく見守り、一日も早く温泉病院の雰囲気になじんで一人立ち出来るように育てていただきました。新入職員の皆様は、常に一歩前に入る意気込みを持って、(合同入職式での木曾理事長の訓示)仕事を覚えていただきたいと思います。

新入職員の資格区分は看護師八名 准看護師六名 看護助手四名 理学療法士二名 作業療法士二名 言語聴覚士一名 保育士二名の合計二十七名です。

今年の特徴は、保育士二名が男性の新入職員という結果は、温泉病院開設以来初めてです。一週間の研修を終了し四月七日、各所属部署に配属されました。

これからは、医療人として責任ある業務を自信を持って遂行して下さい。明日の温泉病院を背負うフレッシュな新人ガンバレ。

事務部長
 下坂輝基



二十周年記念誌「架け橋」
 編集に携わって

昨年八月、当院は開院二十周年を迎えました。記念すべき二十周年事業の一貫として記念誌を発行することとなり、私を含め五名の委員で記念誌発行に取りかかったのが昨年九月のことでした。

(医)協和会各病院をはじめ、近隣病院の記念誌を参考にし、見て楽しい記念誌創りを目標に取り組んできました。

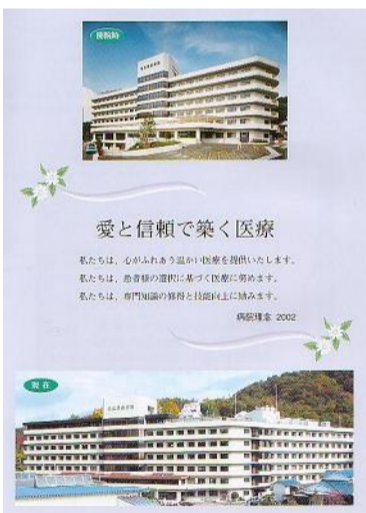
できるだけ活字を少なくしながらも、温泉病院の歩みを感じていただける記念誌創りのため、協和会本部赴いて資料収集したり、当時の関係者に問い合わせをしたりしました。

職員それぞれの思いが満載されているかどうか自信はありませんが、遅ればせながらも無事発行することができました。

この記念誌発行を契機に、今後温泉病院が二十五、三十年・・・と発展し続けることを願っています。

最後に、記念誌編集にご協力を頂きました職員の皆様をはじめ(医)協和会関係各位に厚く御礼申し上げます。

理学療法科科长 中 塾 勲



「患者様の権利」に関する宣言

- 平等で適切な医療を受ける権利**
 患者様には、差別される事なく適切な医療を受ける権利があります。
- 自己決定の権利**
 患者様には、十分な説明のもと医療行為を選択・拒否する権利があります。
- 情報を知る権利**
 患者様には、医療に関する情報を知る権利があります。
- 秘密保持を得る権利**
 患者様には、医療従事者が知り得た全てのプライバシーを守られる権利があります。
- 尊厳を得る権利**
 患者様には、いかなる時にも尊厳をもって扱われる権利があります。

看護部の理念

豊かな心 心の看護

看護部の方針

看護職者としての専門的技術、知識を駆使した質の高い看護を提供する。
 私達はこの使命をもって患者様との信頼関係を築き、人間性を尊重すると共に、関係部署、地域との連携を深めて安心と満足を提供する。

病院理念

愛と信頼で築く医療

基本姿勢

私たちは、こころがふれあう温かい医療を提供いたします。
 私たちは、患者様の選択に基づく医療に努めます。
 私たちは、専門知識の修得と技能向上に励みます。



三階南病棟紹介

三階南病棟は、平成十二年四月に介護保険が始まり、昨年十一月まで介護療養型病棟として、療養生活の中で、看護・介護を通して機能維持や回復への援助」の役割を持ちガンバツてきました。

この間に力をいれたのは、寝たきりの患者様の離床と遊ビリテーションです。ベッドから離れる事で、天井や病室を見ている生活からさらさらしく、午前十一時から新館の廊下で拘縮予防体操や起立訓練を行っています。目や耳から刺激を受けることで、目を見開き表情が出てきました。週二回の遊ビリテーションは、季節に合わせて作品作りや身体を動かすゲームを取り入れました。

中でも、恒例になったミニ運動会では、最初の際は事故が起きないかとヒヤヒヤドキドキした事を覚えています。しかし、感動する場面もありました。パン食い競争ならぬラムネ入り袋取り競争です。普段は、手がなかなか出ない患者様も、競争となると年は関係なく身も心も動き職員を

驚かせました。玉入れ競争では「ア！私、何も持たずに立てた。」と大感激した患者様がいらっしゃいました。このような感動の場面を職員も体験したくて恒例になったとも言えます。十一月より、医療療養型病棟になりましたが、これからも快適な入院生活を過ごしていただくため、音臭い・職員への対応等患者様ご家族様が満足する療養環境作りに努めて行きたいと思えます。

三階南病棟 課長

稲田純子



業務改善委員会からの提言



私たち業務改善委員会は、当院における医療、リハビリ、ケアの質の向上、また、業務のムダを省いていくことで業務の、統一や効率化を図ることを目的に、日々の業務の改善を検討していく委員会として、昨年五月に設置されました。

当院の業務の改善について検討していく中で、委員のメンバーだけで考えるのではなく、当院で勤務している職員の皆様が普段感じておられるどんなに些細なことでもかまいませんので、『こんな風にすれば良いのでは？』、『この作業をしなければいけないのは不便だなあ。』、『もっとこうなってくれたら患者様や家族様が喜ばれるのでは？』等、業務の中で少し困っていること、もっと工夫できそうな部分や改善できそうな部分についてのアイデアを、今後の委員会活動の参考にさせていただけたらと考え、昨年末にアンケート方式で公募いたしました。

業務改善に関する要望や、貴重な意見が百四十一件も提出されました。その中でもエレベーターに関する意見が多数ありました。その内容を、パソコンのマイコンピュータ(Y)ドライブに「エレベーター改善案集」のホルダーを設けましたので、良案・ご意見をどしどし入力してください。

百四十一件の提案を、関係部署に分類し改善・検討を行っていただきましたが、関係部署での検討困難なケースにつきましては、委員会が積極的に関わり改善・検討して行きたいと考えています。改善策や検討内容は、逐次七階の掲示板を利用し職員の皆様にお伝えして行きます。

よりよい入院環境や、働く環境を大切に皆様で考えて、行きましょう。

業務改善委員会 委員長 山本嘉代子

【編集後記】

当院をご利用頂いております、患者様及びご家族様並びに地域にお住まいの皆様にも協立温泉病院を知って頂きたいと思ひまして、温泉病院だより」を、年二回発行しております。

今回は、新入職員を迎えて「及び病院創立二十周年記念誌の完成報告」と「病院理念」・「患者様の権利」・「看護部の理念」を一面に、それぞれ掲載しました。

業務改善委員会による院内の改善を要する、身近な問題点を抽出し改善状況とその現況、並びにシリーズ特集として病棟紹介を二面に、それぞれ掲載し「温泉病院だより」第七号を発行いたしました。

なお、広報紙の記事につきましてご感想・ご要望等、ご意見をお寄せ下さい。次号、編集業務の参考とさせていただきます。

平成十六年五月 編集長

ご意見箱

協立温泉病院では、病院ご利用の皆様へのサービス向上の目的で「ご意見箱」を各階に設置しています。患者様及びご家族様の、ご意見・ご要望を遠慮なくお聞かせ下さい。

平成15年11月1日から平成16年3月末日までにお寄せ頂きましたご意見の一部を、ご紹介させていただきます。

ご意見 その一

テレホンカードの販売機を設置してほしい。

お答え

テレホンカードの販売は、事務所職員に申しつけていただきましたら、準備しております。遠慮なく申しつけてください。

ご意見 その二

血圧測定の標準値の表があったらいいと思います。

お答え

専門の医師に意見を聞きまして、血圧の標準値表を貼り出しました。参考にしてください。

ご意見 その三

患者さんのオムツ交換時に、介護士や看護師が各患者さんにオムツを配る時に、患者さんがねたきりの方や家族がいない時に、ベッドの上にオムツをほり投げる様にくばる人がいる。人に対するいたわりや優しさを感じられない。

お答え

ご指摘の件ごもっともです。病棟責任者からスタッフ全員に指導徹底を図ります。なお、患者様及びご家族様に、ご不快な思いをお掛けしないよう接遇に関しまして、全職員に再度指導いたします。

ご意見 その四

看護師さんが患者さんの痰を吸引したり、口のケアをしている時に素手でされているのですが、体の弱った患者さんに対して衛生上あまりよくないと思う。菌に感染したりする場合もありえなくはないと思うので、手袋などを着用してほしい。

お答え

吸引であれ、口腔ケアであれ、行為の前には手洗いあるいはウエルパスによる、消毒をする事を徹底しています。また、手袋につきましては全ての行為に使用するのではなく、状況に応じて使用するようにしておりますのでご不信等ありましたら病棟所属長にお尋ねください。

【貴重なご意見、誠にありがとうございました。】